

馬術競技会における馬の治療について（競技会主催者の皆様へ）

7月1日から公認競技会が再開するにあたり、馬術競技会における馬の治療について主催者の皆様に改めてご連絡いたします。

競技馬のウェルフェアは競技会における最優先事項であり、主催者・役員・参加者等、すべての関係者が守らなければなりません。具体的には、馬の虐待防止、ドーピング防止、許可のない治療行為の禁止が主な事項です。

公認競技会における馬の治療行為は、日本馬術連盟獣医規程により厳しく規制されており、原則として薬物を用いることは認められていません。治療が必要な場合は大会主催者が指名した「救護獣医師」（第1005条2（4）および第1007条）または許可を受けた「プライベート獣医師」（第1008条）が行わなければなりません。

- ・主催者から許可を得ていない者による治療
- ・許可を得た獣医師以外の者による競技会場への注射器、注射針、禁止物質・規制物質の持ち込み（第1029条）

上記事項は競技会において一切認められておらず、これらが判明した場合には、主催者から報告を受けた日本馬術連盟が、当事者に対し処分を実施する可能性があります。

競技会主催者の皆様には、このことを今一度確認され、競技馬のウェルフェアと馬術競技の公正性を守るため、参加者（選手、トレーナー、グルーム、オーナー）への周知徹底をお願いいたします。

公益社団法人 日本馬術連盟
獣医委員会